

令和4年(2022年)上半期火災・救急・救助の概要について

火災概要

令和4年上半期の火災発生件数は4件で、前年同期と比べ6件の減少となっている。火災種別ごとに前年同期と比較すると、建物火災が3件で2件の減少、林野火災が1件の皆減、車両火災が1件の皆減、その他の火災が1件で2件の減少となっている。

火災による焼損棟数は3棟で、前年同期と比べ3棟の減少となっている。焼損程度ごとに前年同期と比較すると、全焼が2棟の皆減、部分焼が1棟で増減なし、ぼやが2棟で1棟の減少となっており、焼損床面積は42平方メートルの皆減、焼損表面積が1平方メートルで増減なしとなっている。

火災による人的被害は負傷者がなく、3人の皆減となっている。

り災世帯は、小損が3世帯の皆増、り災人員は8人の皆増となっている。

火災損害額合計は129万円で、前年同期と比べ458万円の減少となっている。損害種別ごとに前年同期と比較すると、建物損害が129万円で369万1千円の減少、車両損害が63万3千円の皆減、その他の損害が25万6千円の皆減となっている。

出火原因の状況については、放火、配線器具、こんろ、不明が各1件となっている。

前年同期と比べ火災件数は減少しているが、今後も更に放火による火災発生防止の徹底を図り、防火広報やパトロールの強化及び警察との連携強化に努めるとともに、市民や各事業所と一体となって、放火されない環境づくりに取り組み、安心・安全な暮らしの実現を目指す。

火災状況

区 分		年 別		令和4年 (2022年)	令和3年 (2021年)	前年との 比 較
		計				
出火件数 (件)	計			4	10	△ 6
	建	物 火 災		3	5	△ 2
	林	野 火 災			1	△ 1
	車	両 火 災			1	△ 1
	船	舶 火 災				
	航	空 機 火 災				
	その他の火災			1	3	△ 2
焼損棟数 (棟)	計			3	6	△ 3
	全	焼			2	△ 2
	半	焼				
	部	分 焼		1	1	
	ぼ	や		2	3	△ 1
焼損面積	建 物 (㎡)	床 面 積			42	△ 42
		表 面 積		1	1	
	林 野 (a)					
人的被害 (人)	死 者					
	負 傷 者				3	△ 3
り災世帯 (世帯)	全 損					
	半 損					
	小 損			3		3
り 災 人 員 (人)				8		8
損 害 額 (千円)	計			1,290	5,870	△ 4,580
	建	物 損 害		1,290	4,981	△ 3,691
	林	野 損 害				
	車	両 損 害			633	△ 633
	船	舶 損 害				
	航	空 機 損 害				
	その他の損害				256	△ 256
	爆 発 損 害					
1日平均損害額 (千円)				7	32	△ 25
市民1人あたりの損害額 (円)				18	79	△ 61
火災1件あたりの損害額 (千円)				323	587	△ 264
建物火災1件あたりの焼損床面積 (㎡)					8	△ 8
出 火 率 (件/万人)				0.5	1.4	△ 0.9

△は減少を示す

救急概要

令和4年上半期の救急出動件数は2,023件、搬送人員は1,898人で、前年同期と比べ出動件数は426件の増加、搬送人員は380人の増加で、1日平均11.2件の出動となっている。

事故種別ごとでは、急病1,452件、一般負傷300件、交通事故123件で全体の92.7%を占め、以下、転院69件、労働災害25件、自損行為20件、運動競技15件、加害4件、火災1件、その他14件となっている。

事故種別ごとに前年同期と比較すると、急病338件、一般負傷49件、交通事故15件、運動競技8件、労働災害、自損行為、転院が各6件、その他が1件の増加に対し、加害が3件の減少、火災が増減なしとなっている。

搬送人員1,898人の傷病程度については、死亡42人、重症68人、中等症706人、軽症1,082人であり、入院加療を必要としない軽症者が全体の57.0%を占めている。

事故種別ごとに軽症者の占める割合をみると、交通事故89.9%、一般負傷73.2%、急病52.6%となっている。

医療機関への収容先については、城陽市内35.7%、久御山町内28.9%、宇治市内24.1%、京田辺市内6.8%、京都市内4.0%、その他の京都府内0.5%、他府県0.1%となっている。

市民等に対する応急手当普及啓発活動は、普通救命講習Ⅰ（3時間）を10回153人、その他の講習を18回786人に対して実施している。

救急出動状況は、前年同期と比べ出動件数で26.7%増加、搬送人員で25.0%の増加となっている。搬送人員のうち高齢者の割合は69.5%を占め、前年同期と比べると0.9ポイントの減少となっているが、依然として高齢化社会を象徴する状況が続いている。

また、搬送人員に占める軽症者比率が高いことから、今後も救急車の適正利用について啓発活動を続けるとともに、救急隊現場到着までの空白時間を埋めるため、応急手当普及啓発活動をさらに推進し、救命率の向上に努める。

救急状況

年 別 区 分		令和4年(2022年)			令和3年(2021年)			前年との比較			
		出動件数 (件)	うち 管外 (件)	搬送人員 (人)	出動件数 (件)	うち 管外 (件)	搬送人員 (人)	出動件数 (件)	うち 管外 (件)	搬送人員 (人)	
事 故 種 別	火 災	1		1	1		1				
	自 然 災 害										
	水 難										
	交 通 事 故	123	2	119	108	1	100	15	1	19	
	労 働 災 害	25		24	19		19	6		5	
	運 動 競 技	15	1	15	7		7	8	1	8	
	一 般 負 傷	300		291	251	1	240	49	△ 1	51	
	加 害	4		4	7		5	△ 3		△ 1	
	自 損 行 為	20		15	14		12	6		3	
	急 病	1,452	3	1,360	1,114	3	1,071	338		289	
	そ の 他	転 院	69		69	63		63	6		6
		医 師 搬 送									
		資 機 材 搬 送									
そ の 他		14			13			1			
合 計		2,023	6	1,898	1,597	5	1,518	426	1	380	
不 搬 送 件 数 (件)		133			82			51			
出 動 延 べ 員 (人)		6,458			5,030			1,428			
1 日 平 均 出 動 件 数 (件)		11.2			8.8			2.4			
1 日 平 均 搬 送 人 員 (人)		10.5			8.4			2.1			
1 日 最 多 出 動 件 数 (件)		21			18			3			

△は減少を示す

傷病程度別救急搬送人員状況

傷病程度別 \ 事故種別	急病(人)	交通事故(人)	一般負傷(人)	その他(人)	計(人)	比率(%)
死亡	39		1	2	42	2.2
重症	58	2	5	3	68	3.6
中等症	548	10	72	76	706	37.2
軽症	715	107	213	47	1,082	57.0
その他						
計	1,360	119	291	128	1,898	100.0
軽症者比率(%)	52.6	89.9	73.2	36.7	57.0	

※比率については、項目毎に四捨五入しているため、合計の一致しない場合がある。

収容先別救急搬送人員状況

収容先別 \ 事故種別	急病(人)	交通事故(人)	一般負傷(人)	その他(人)	計(人)	比率(%)
城陽市	476	52	120	29	677	35.7
久御山町	405	31	89	23	548	28.9
宇治市	348	12	54	43	457	24.1
京田辺市	70	24	25	11	130	6.8
京都市	54		3	18	75	4.0
その他の京都府内	6			3	9	0.5
他府県	1			1	2	0.1
計	1,360	119	291	128	1,898	100.0

※比率については、項目毎に四捨五入しているため、合計の一致しない場合がある。

年齢別救急搬送人員状況

事故種別 年齢別	急病(人)	交通事故(人)	一般負傷(人)	その他の他(人)	計(人)	比率(%)
新生児	2				2	0.1
乳幼児	44		14		58	3.1
少年	20	7	7	14	48	2.5
成人	320	64	40	47	471	24.8
高齢者	974	48	230	67	1,319	69.5
計	1,360	119	291	128	1,898	100.0

※比率については、項目毎に四捨五入しているため、合計の一致しない場合がある。

新生児：生後28日未満の者

乳幼児：生後28日以上満7歳未満の者

少年：満7歳以上満18歳未満の者

成人：満18歳以上満65歳未満の者

高齢者：満65歳以上の者

救 助 概 要

令和4年上半期の救助出動件数は23件、活動件数は15件、救助人員は12人で、前年同期と比べ出動件数は2件の増加、活動件数は1件の増加、救助人員は増減なしとなっている。

事故種別ごとの出動及び活動状況では、建物等による事故の出動件数は1件で活動件数が1件、その他の事故の出動件数は22件で活動件数が14件となっている。

事故種別ごとの救助人員及び傷病程度をみると、建物等による事故では1人を救助し、中等症が1人となっており、その他の事故では11人を救助し、中等症が4人、軽症が3人、不搬送が4人となっている。

前年同期と比べ救助出動件数が増加しており、今後も都市構造の変化により複雑多様化する救助事象に対応するため、救助資器材の整備や訓練を重ね、隊員の知識・技術・体力の向上を図り、安全・確実・迅速な救助活動が展開できるように努める。

救助状況

事故種別	令和4年 (2022年)			令和3年 (2021年)			前年との比較		
	出動 件数 (件)	活 動 件 数 (件)	救 助 人 員 (人)	出動 件 数 (件)	活 動 件 数 (件)	救 助 人 員 (人)	出動 件 数 (件)	活 動 件 数 (件)	救 助 人 員 (人)
火 災									
交 通 事 故				5	4	4	△ 5	△ 4	△ 4
水 難 事 故									
風水害等自然災害									
機械による事故				1	1	1	△ 1	△ 1	△ 1
建物等による事故	1	1	1	3	3	2	△ 2	△ 2	△ 1
ガス及び酸欠事故									
破 裂 事 故									
そ の 他 の 事 故	22	14	11	12	6	5	10	8	6
合 計	23	15	12	21	14	12	2	1	

△は減少を示す

事故別傷病程度状況

事故種別	活 動 件 数 (件)	救 助 人 員 (人)	傷 病 程 度					
			死 亡 (人)	重 症 (人)	中 等 症 (人)	軽 症 (人)	そ の 他 (人)	
火 災								
交 通 事 故								
水 難 事 故								
風水害等自然災害								
機械による事故								
建物等による事故	1	1			1			
ガス及び酸欠事故								
破 裂 事 故								
そ の 他 の 事 故	14	11			4	3	4	
合 計	15	12			5	3	4	